



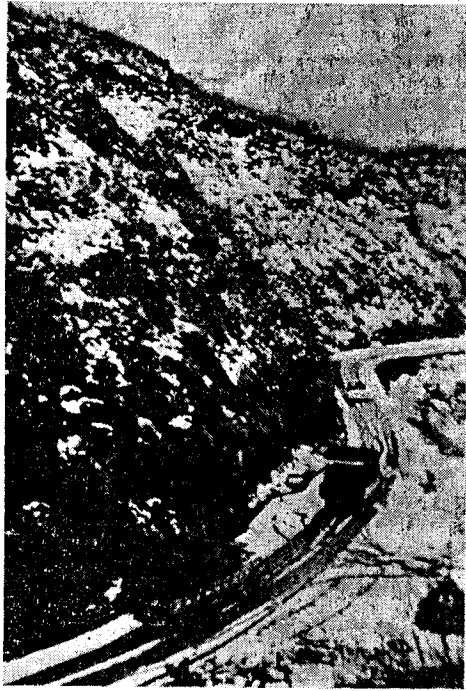
発行所 福井県大野郡 和泉村公民館 印刷所 松浦印刷所

3月強調目標 雪害予防 一、道路の通行にはなだれや落石に注意しなす。二、各戸前の除雪はこまめに致しなす。三、消火栓や防火用水は何時でも使用出来る様手入れしなす。

越美線工事の再開めざして

今後とも積極的に促進運動を

新和泉村建設の前に、目まぐるしいまでに諸種の重大問題が発生した。曰く電源開発、越美北線工事の中止、そして連年の大災害等々、心身共にへとへとにさせられてしまふ様な現状である。電開問題に關して、先月号に於て村民の総力結集を呼び掛けた直後、両社から補償要項の提示を受けたが、之は全く論外に等しいも



(写真は現在の輸送)

居る建設線は四線位しかのこつていないとの事である。実に気の錬れた悠長な話である。勿論此の長い歴史の中には、後の鳥が先になつて既に運行しているものや、現在建設中の中のものも幾多の例が見受けられるのである。而も、三十数線に及ぶ建設線中、開通後黒字経営が予想されるのは僅かに一、二線に過ぎず、他は総べて赤字予想線であるが、中でも当越美線は資源開発線としての価値に於ては優位にある事、更に全線開通によつて中京経済圏と結ぶ今後に於て重要な意義をもつ重要路線と解されるのである。いづれ大差のない中に年々いくつかの線は建設を行つて居るのである。

毎年百億に近い建設費が投資され、昭和三十七年度に於ても約七十五億が既に計上されて居るにもかかわらず、残念ながら今年も越美線に關しては含まれていない理由だ。四十間の長い間のこの理由

現代人にとつて交通難ほど大きな障害はない。全く致命的だ。鈍重で保守的封建的な気持が根強い為、積極進取の気象に乏しく、総てをきらめくるのは山や雪のためよりそれから来る交通難のためだ。それらから来る交通難のためより、くまでねばりぬく気持より、あきらめの気持が強いように感じられ、遂に如何ともし難く、あきらむる。雪と闘い雪に耐えたいが、何となく、越美北線は勝原どまりとは誠に残念至極だ。北陸、東海を結ぶ最短距離にあり乍ら、何故その様なことになるのだらう。東海道並ではなくとも、せめて世間並に、冬の日でも大野市や白鳥町ぐらゐまでは日帰り出来るようにならぬものか。夏の道は悪路だ、だが車は通る。今の冬の悪路ではどうにもならぬ。和泉村に住んでいても山と雪を喜ぶ近代人の仲間入りがしたい。

六年後福井県に於て開通が予定されている国民体育大会に備へて、後援を得て、昭和三十六年四月和泉村体育協会が発足したが、そのための強化訓練が着々行われ、各都道府県を確保して村内大会、県体予選会、選手権大会等、多彩な行事計画は夫々立案しながら、災害に備へられて、村内行事として青年団体行事の後援をして来た程度に終結した事は誠に遺憾に堪えない処であります。

併しながら県大会に對しましては柔道部、ソフトボール部、卓球部、軟式野球部、バレーボール部等、夏季大会に大量選手を派遣致しましたが、前述の通り練習不足等もあり、全選手よく善戦健闘したにもかかわらず、全種目敗退し、村民各位の御期待に副い得なかつた事を申し訳なく存じております。然し冬季大会は、村大会として村スキー場に於て奥越大会を開催し、盛會が予想されたが、前日頃からの猛吹雪に悩まされ、参加選手が全地域より得られず、一抹の淋しさはまぬがれなかつたけれど

確立しようという、日の丸擁護運動は、終戦以来久しく眠つていたかに見える同胞の民族的自覚をよびよせ、熱烈な共感を得て各地に続々日の丸の誕生となり、国民運動として広く深く浸透発展しつつあります。日本人として、また運動に關係するものとして、何よりも嬉しく心強いことでありませぬ。 過月毎日新聞によると、日の丸擁護会の外にも、いろ／＼な団体が、日本の国旗をもつと尊重しようという運動を推進しているといふ記事を見ました。このあたり前の事が日本にとつて全く不要のよ

改善したい 冬の交通

村民の聲

冬になると、雪が降り、またあの雪かきと独り心が暗くなる。実際隣りの家へも下駄ばきでは行けない。ゼツト飛行機はアメリカまで十数時間で行くことが出来る。東京、大阪間は三時間で走る東海道新線、自動車で四、五時間で走る高速自動車道路がど／＼建設されている。新聞、ラジオ、テレビは毎日交通情報を報じているのに、私達和泉村民はどうだろうか。交通むさわい

この動きに相呼応して、当村に

六呂師に於けるクラブ対抗の県大会、引続く二月三、四日荒島スキー場に於て開催された県民体育大会冬季大会に、夫々別掲の様

も、盛會裡に併し好記録をのこして閉会し、役員各位の御協力に對し改めて深謝申し上げる次第であります。

只此の場合最大の障害として危惧されることは電開問題である。誠意の認め得ない補償方針や基準の提示に對する村の回答が開通拒否となつて表われ、今後此の問題の発展が開発計画に逆行し、その為には又々鉄道問題延期や中止の理由とならぬ様村民にぞつて之が排除に當らなければならぬ。

再促進について 北陸地方と中京、東海地方を最短距離で結ぶ越美北線は、福井駅より北濃駅に至る延長約八八杆に及ぶ鉄道建設計画で、すでに關係当局の御理解により、昭和三十

国体に備へて体育教育の向上を 体育協会一年の回顧

於きましても村当局の絶大な御後援を得て、昭和三十六年四月和泉村体育協会が発足したが、そのための強化訓練が着々行われ、各都道府県を確保して村内大会、県体予選会、選手権大会等、多彩な行事計画は夫々立案しながら、災害に備へられて、村内行事として青年団体行事の後援をして来た程度に終結した事は誠に遺憾に堪えない処であります。

ラジオ農業学校開講のお知らせ 四月一日より日本放送協会の協力を得てラジオ農業学校が開講されることになりました。現在の農業を一步々よりよく改善するためにもぜひ受講しなす。

農業基礎編 毎週月、火、水曜日の午前六時三十分から四十五分まで、午後七時三十分から八時までの二回ずつ。

農業実務編 毎週木、金、土曜日の午前六時三十分から四十五分まで、午後七時三十分から八時までの二回ずつ。

再促進について 北陸地方と中京、東海地方を最短距離で結ぶ越美北線は、福井駅より北濃駅に至る延長約八八杆に及ぶ鉄道建設計画で、すでに關係当局の御理解により、昭和三十

右のとおり決議する。 昭和三十六年十二月十六日 福井県議会

国土緑化大会を開催

天皇 皇后両陛下下行幸啓のもと

本年四月二十一日、福井県坂井郡丸岡町で国土緑化大会が開催され、天皇、皇后両陛下が初めて本県にお揃いで行幸啓になりました。これは、福井県民七十五万の感激はもとより、とくに、林業関係者の感激一入のものがあります。

これを機として、県下の林業行政は飛躍的に推進され、この聖事を機に、更に国土保全のための県土緑化に邁進したいものです。

和泉村に於ては、連年の災害続きで、計画目標の植林事業は思うように推進されなかつたが、四月の聖事を機として一大奮起、郷土保全のため且又、私達自身のため、大いに造林事業に邁進した

成果を挙げた冬の祭典

雪に明け、雪に暮れるこの村にも、今や春遠からず、今冬、活躍した山村体育協会所属スキー部員力闘の成果を明らかにして各位の激励に応えたい。

一、奥越スキー大会 既報(二月一日号)の通り
 二、六呂師大会
 一月二十、二十一日六呂師スキー場で行われ、福井県選手権獲得及び中部大会、国体予選を兼ねての健闘で出場選手の戦果は次の通り。

郷土のゆかり

大納部落

交通関係は主として三坂峠を越え、東は越前峠を越えて美濃路に通ずる山道为主要道路として使用開発につくし、時代の流れに沿って生活の進歩も、徳川時代と異なるや行政上の大変化ありて代名領分となり、藩別の行政下となり、当地は大野土井藩の領分となり、長崎村も大納村と改称され農業工業畜産等の奨励されたるにより各戸大いに農業に励み、大野藩の諸運賃の納付となり、年貢倉庫等も建てられ、鉱業も奨励され、一時大掘、採取選別等の遺品等が各所に

文化の発達は今や大宇宙にまで及び、地球などは急に狭くなった感じがする。テレビなどは徳川時代のお殿さまに見せやうとやら、なんに肝をつぶすやうとやら、はる。険しい雪の坂道を鉱山のリフトに乗り、「リフトもどうやら庶民文化となつたか」と思う。しかもこのリフトは無料サービスと書いてある。何とありがたいことであるか。

話の前に戻るが、天人の翼を動かす動力が、何か近頃はやる原子力を用いて小さくして強力なモーターを作り、ボケツトの中に入れておき、ボタンを押せばスーツと体が

野郡代表として出場し総合三位を獲得した。尚個人成績次の通り

- ◇回転(五〇〇米) 二位 田中 勝美、三位 村下 徹、四位 丸山 義治
- ◇大回転(六〇〇米) 三位 水谷 寛
- ◇継走(八〇〇米) 二位 河口 孝次、三位 森尾清左衛門
- ◇中部日本大会 二月十一、十二、十三日長野県細野スキー場への出場選手は田中勝美、村下徹、森尾清左衛門の三君。
- 五、国民体育大会 冬の大会は北海道天狗山スキー場で行われ、出場選手は田中勝美、森尾清左衛門、河口孝次の三君で、中部大会、国体とも選手の力量十分に発揮出来ず、次の機会への栄光を期している。



(写真はスキー大会の一コマ)

庶民文化

空中に飛び上がることの出来る安価な機械(バイク程手軽に)が出現したらどんなに楽しいだろう。聞く所によると、ドイツでは目下研究中で、これも私たちの目の玉の黒い中に庶民文化として利用されるようになるかも知れない。

ブルトナーの威力!! 終戦後、急速に復興出来たのはこのブルトナーの貢献に負う所が多い。しかし庶民としては高価なものである何かモータースキーのようなものが出て来れば、坂を上る時はクラッチ一つでキヤタビラから無数のブレイクビンが飛び出して、スリッパなしに悠々と山を登ることが出来るに愉快だろう。誰かやつて下さい。

大野往復の時いつも思うのだが山のカーブが危い。反射鏡か時限シグナルを取りつけたらどんなに安心だろう。今から電源開発で交通も頻繁になることだし、和泉村と大野市の境界あたりに中継所のようなものを設置し、緊急時の電話連絡や給油所などを設けたら、工事関係者だけでなく一般庶民の便利はいまよりもな

児童のさくせん

一ねん 中山めぐみ

さくせんは、ぼくたちのがくげいかいですが、いちばんききは、一ねん生のあいさつがはじまりました。そのつぎは、二ねんせいのおどりでした。そして、三ねんせいのおどりがすんでいて、やつとぼくたちのばんがきました。

あまりみんながきていたので、ぼくは、はにかしかったです。そして、ぼくたちのがつそうになりました。あとにはぼくは「たいこ」といきました。

ぼくは四ねんせいのまねし小づうをまわっていると、まねし小づうのばんがきました。

学芸会

二年 中山めぐみ

さくせんは、わたしたちの学芸会です。二年生は牛わか丸のげきをしました。

まくがあくと、むねがどきどきしました。のり子ちゃん、たくこさんと、ゆき子ちゃん、男の子に、わたしと文字ちゃん、女の子です。

まさしく「牛わか丸の心をつようしてやろう」といったので、わたしは「そんなことでできるもんか」といったら「できるよ」といきました。そしてまたまきくんが「女はあつちへいけ」といったのでまわりのなかへかれました。

そのうちにまきくんたちのそのうだんがきまり、ばんごんがすんだら、一番どりにあつたものでした。

りゆうじくんは牛若丸になりました。



(写真は学芸会の一コマ)

千人以上の来客者にして船・亜鉛・銀等の採掘に努力せられ相当の繁栄を極め、之が輸送のため谷戸道路の開発等、地元のためにも非常に貢献せられたのも事新らしき事でありました。

斯くの如くにして往古より逐次発展の一路をたどりつ、生活を続けて来た我が部落には、種々な困難がともなつて出来上つたのであります。我々は祖先の御恩徳に感謝し、子孫のためにも大いに努力し、明るい楽しい部落を建設し、時代の流れに沿い、社会国家に貢献する事こそ、重大責務である事を痛感します。

人のういき

- 箱ヶ瀬 美濃島博司 郁夫武男
- 持穴 阿部 清美 好男武女

- 米俵 池尾 次郎 重太武男
- 野尻 宮原ゆき 智武女
- 上大納 三坂 直子 保司参女
- 〔婿〕 古古屋市西区 森 恒夫
- 〇東市布 中村 道子
- 〇東市布 川端 隆平
- 〇岐阜県上郡白鳥町首我 仲夫
- 〇谷口 晴夫
- 〇東市布 谷口千代子
- 〇酒井 美明
- 〇岐阜市長森高田 足立 弘子
- 〇大分県大分郡大南町三重野権市 石神千鶴子
- 〇石川県石川郡松任町 西田 外文
- 〇長野 村下 敏子
- 〇貝血 河口佐智男
- 〇岐阜県上郡白鳥町須甲 立美
- 〇牧島 武
- 〇長野 高谷 俊江
- 〇下半原 中森 寛
- 〇岐阜県上郡白鳥町山下十四子 石丸 鉄夫
- 〇名古屋市中村区 阿部キミエ
- 持穴
- 〇青森県上北郡七戸町西野 善孝
- 箱ヶ瀬 美濃島香枝子
- 〇愛知県東郷郡木曾川町 五藤 正宗
- 持穴 伊藤 栄子
- 〇愛知県春日井市上条町 塚田 栄
- 久沢 徳山 好子
- 〇持穴 深谷 昌義
- 佐賀県武雄市東川登町 原田トミエ
- 中竜 村上 政幸
- 中竜 上原あさの

最後に、当村には医師、技術家教師、大工等の職種が少し足りないのはなからうか。国家補助とタイアップして、村としても奨学制度を確立してどんなに養成し、少なくとも義務年限以上は村内で奉仕的に勤務をするような方法を講ずるのも一策ではなからうか。ささやかな空想や願いはあるが何か専門家や、為政者の方々、又一般の御指導を得られれば幸いです。今や電源開発の好チャンス挙つて和泉村の将来を思い、庶民文化の幸福を味うことが出来るよう折つてやまない。

▲交通網は国、県、村の動脈で、その動脈が硬化したり、弁膜閉鎖を起して血液がストップすれば最早や死以外何もたない。産業開発も、観光促進も、文化の発展も否生活権の確保すら交通整備によつてはじめて得られることである。今日この頃、こんな地域をなくする交通対策本部はほしいものである。▲それにしても習慣の力とあつても強いものか、十二月末から三月中旬まで全く交通の遮断されている地方がある。三ヶ月間の孤立である。孤立、孤立、思えば恐ろしい事だ、そしてその孤立を冬だ、雪だ、という理由だけで諦めては、吾々の思考の単位が、村落から郡県単位に、更に国単位の拡充され、今や何事も世界単位に考えねばならぬ時代に、落人時代の原型がそのまま存続されている事実は、「諦めているもの」として見捨てられていないだろうか。チヨンマが時代には不可能だったが、今でも不可能だというわけでもない。▲機動力の先端は月世界を目指し、宇宙開発時代に入っているのに、地上、而かも人の住むところに、それが如何なる人間で、如何なる理由であるにもせよ三ヶ月の孤立を余儀なくさせることは人道上からも捨ておけぬ事態ではなからうか。事故なれど対策本部の設置も至急の現状に求めているが、吾々は、加減に永い習慣性(としておこ)から脱却して、孤立期間を返上し、四季の別なく健全管理に、日常生活に、産業開発に、何の不安もなく到来するよう、朝野共に強力に推進することを自覚したい。

かじか

▲交通難、交通禍、交通地獄、の呪わしい言葉でまだ言い足らず、最近では交通戦争などと新語まで造り出さねばならぬ程、交通事情は悪化し、之が頭にきて各処で交通対策が問題化され、対策本部、対策協議会など名づけられるものが次々に誕生し出した。誠に結構なこと、事故のない一日を、死者の出ない一日を、と交通関係者も懇談会を開いて、その実現の時も早くからんことを期しているようである。吾々も強く念願するところである。